

| | | |
|--|-------------|----------------------------|
| 横浜市小学校社会科研究会 | | 令和元年 12月 4日 |
| 6 学年部会 | | 横浜市小学校教育研究会 会長 栄 秀 之 |
| 研修会記録 | | 横浜市小学校社会科研究会 会長 新 井 篤 志 |
| 第 6 号 | | 同 学年部長 杉 本 敬 之 |
| 【提案日時】 | 10月 30日 (水) | 提案 中野 純貴先生 (西富岡小) |
| 【会 場】 | 横浜市立丸山台小学校 | 司会 板山 涼 先生 (星川小) |
| 記録 保科 彰利先生 (本郷台小) | | |
| <p>【提案】 (前回からの変更点)</p> <p>(資料) ・年表を2列に記載して、当時の国力や文化に目が向くように記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国から見た日本の評価を表した絵図の追加。 <p>(単元を見通す学習問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本はどのようにして外国に追いつくことができたのだろう <p>(本気の学習問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法についての活動を追加。 ・学区近くで憲法が作られたこともあり、伊藤博文の内容にもふれたい。 <p>【検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2時間目と3時間目の内容にあまり差がないので合わせても良いのではないか。 ○条約改正の失敗をどうとらえるかが大切。 ○ノルマントン号の絵を活用して年表と関連づけて考えるのは難しい。 →現在どのような課題があり、その結果「やはり改正しなくてはいけない」との流れになると考えやすい。そのためには、前時までの内容をしっかり押さえておくことが大切になる。 ○単元を見通す学習問題は、「日本は」よりも「明治政府」としたほうが考えやすい。 ○外国に追いついたとの事実はあるのか? ・ ・ 「何をしようとしたか」の方が考えやすい。 ○前時までに、自由民権運動を取り上げ、国民の高まりについてふれると視野が広がる。 ○憲法制定前の時代と比較し、制定後はどのように外国に認められたか? 日本がよくなったのか? などの切り口で本気の学習問題を設定するのもよい。 ○天皇中心の憲法をつくった後の外国からの評価にふれてもよい。 <p><若色先生より></p> <ul style="list-style-type: none"> ○年表は大きな括りでとらえてもよい。あまり細かくすると途中の出来事が気になりすぎてしまう。子どもの思考では、「国力が上がった」ととらえられればよいのでは。 ○教科書は憲法までが前小単元でノルマントン号からが次の小単元。指導要領は憲法から日清・日露までが学習のまとまりとなっている。どんな国づくりを目指したのかの視点で、大日本帝国憲法を考えていけるとよい。 ○本気になれる学習問題は、学級の子どもたちが気になって仕方ないという言葉で作りたい。子どもの実態に合った問題を設定できるようにしたい | | |